# しろね図書館だより

発行　白根市立図書館
No. 31　平成14年12月1日

年は唯黙々として行くのみぞ　高浜虚子（合本俳句歳時記　角川書店編）

本当に、年はあっという間に過ぎていくなあ、と思います。当館も、忙しい毎日を送っていますので、月日の経つのが、とても早く感じます。来館者も、これからの時季は、1,000人位づつ減っていくようです。11月より12月が、12月より1月が毎年少くなります。雪の季節で往復は大変でしょうが、中は温いので、どうぞこれからも、ご利用下さいますよう、お待ちしております。

11月の
- 来館者---- 13,355人（見学100人含）
- 貸出冊数--- 13,482冊
- 予約件数---　234件

- ブックバス利用者---- 397人
- ブックバス貸出冊数--- 1,237冊

リクエスト情報（しばらくお待ち下さい）
- 1位・ハリーポッターと炎のゴブレット（22人）
- 2位・千と千尋の神隠し（15人）
- 3位・ハリー・ポッターと秘密の部屋（13人）
- 4位・アルジャーノンに花束を（4人）
- 5位・模倣犯下（3人）

## さあクリスマスおはなし大会

ことしも　1:30からせいりけんを、だします。　がやってくる

とき・12月21日（土）2:00～4:00

1回目 2:00～2:30
くろうまブランキー☆星の銀貨
干支のおこり☆クリスマスの12にち

2回目 2:30～3:00
こびととくつや☆大年の火
北風をたずねていった男の子

3回目 3:00～3:30
みつけどり☆マッチ売りの少女
ホレおばさん

4回目 3:30～4:00
ねずみの婿取り☆三枚の鳥の羽
ゆきむすめ☆森の中の三人のこびと

この講演をききのがしたら損ですよ！
「広報しろね」8月1日号の「みんなのページ」に、投稿されていたMさんが、おすすめくださった「ゲド戦記」の訳者が、白根で「ゲド戦記を語ってくれます。

時・1月26日（日）2:00～4:30
場所・白根学習館ラスペックホール
詳しくは、白根市立図書館まで
TEL 372-5570

## 子どもたちといっしょに

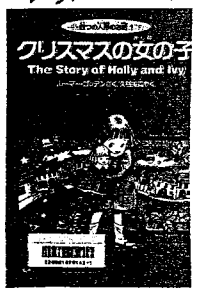
「クリスマスの12にち」（福音館書店）
エミリー・ボーラム　絵
わしづなつえ　訳

クリスマスソングとして、またマザーグースの唄として、英語圏の国々では、親しまれている歌です。イギリスでは、クリスマスイブの12月24日、クリスマスの12月25日が終ってから、12月26日から1月6日まで、さらに12日間もクリスマス期間が続くそうです。この間中、いろいろな行事があり、最後の1月5日から6日にかけての、2夜は、お祭りさわぎのパーティーが開かれたり、ゲームや仮装劇があったり、とても楽しそうです。昔、小鳩くるみという童謡歌手がいて、現在は、上の訳者、わしづなつえさんとして、CDに吹き込まれています。ご家族で歌って、楽しんでみてください。

《ゲド戦記》について
作者は、アーシュラ・K・ル＝グウィンという世界的に名の知られているアメリカのSF作家です。主としておとなのためのSFを書いていますが、子ども時代からファンタジーも愛読していたので、1968年に深い思想とすぐれた構想力に支えられた本格的な空想物語「ゲド戦記」を発表しました。以来、世界中の子どもや大人に読みつがれています。読書家で、この本を知らないと・・・ですよ。

## 第26回読書会

「クリスマスの女の子」四つの人形のお話！
ルーマー・ゴッデン＝さく
久慈美貴・やく




12月8日（日）10:00～
於・白根学習館ルーム2
「人形の家」や「ねずみ女房」でおなじみの、ルーマー・ゴッデンの四つの人形のお話の1巻目です。
イギリスの児童文学の中では、独特の語り口をもっているように思います。このお話は、人形がクリスマスのプレゼントに人間の子どもをもらうという逆転の発想があり、ユニークです。

## 12月の行事　ブックバス予定

| | 12月の行事 | ブックバス予定 |
|---|---|---|
| 4（水） | 絵本のじかん3:00 | |
| 7（土） | 第4回おはなし講習会 1:30<br>おはなし会3:00 | |
| 8（日） | 第26回読書会10:00<br>おやつ作り② 1:00 | |
| 11（水） | 絵本のじかん3:00 | |
| 13（金） | | 白根小 13:00～14:00<br>小林小 14:30～15:30 |
| 14（土） | おはなしかご投会 10:00<br>おはなし会 3:00 | |
| 18（水） | 絵本のじかん3:00 | |
| 21（土） | クリスマスおはなし大会 2:00 | |
| 25（水） | 絵本のじかん3:00 | |

## ある講演会から

庄瀬の明誓寺（みょうせいじ）では、『いま・ここ・を考える会』というユニークな取り組みをされていて、第１８回目の講演会は、『戦争出前噺』－ボレロが聴きたい－であった。講師は、和歌山県在住の本多立太郎（りゅうたろう）さん。

この日は、７９６回目の講演だそうで、二日後の長岡では８００回を迎えるということであった。８８歳の本多さんは、６０歳で定年退職をした後、幼い孫の寝顔を見て「孫に何かを残したい」と思われ、思い出すままに戦争で体験した事を書かれた。それが、新聞で紹介されて、講演依頼がきて、以来１６年間ほとんど手弁当で日本中の人たちに、「戦争出前噺」を語って歩かれているそうだ。行く先は、小学校を初めとした学校が多いそうだ。淡々とした語り口と、わかり易さは、カリスマストーリーテラーであると思った。

特に、思想を前に押し出すわけでもなく、市井の人が戦争に招集されて、そこで出合った様々な事実をありのままに語るのだが、聴いている者の心に深くしみいるものがあり、思わず涙がこぼれた。

「ボレロが聴きたい」のボレロは、当時流行していたラヴェルの「ボレロ」である。招集前に勤めていた朝日新聞社の近くの銀座の喫茶店で、好きでいつも聴いていた曲だそうだ。国から招集が来たという知らせを故郷の父から受けて、思いを寄せていた喫茶店の娘さんに会いに行き、その曲を何度もかけてもらった。昭和２２年に復員してきて、銀座に行ったが、３月１０日の東京大空襲で、娘さんの一家は全員亡くなっていた。その他の話も切ないものばかりだった。

本多さんの著書と、推薦された本を図書館に入れたので、紹介します。

「ボレロが聴きたい」本多立太郎＝著　（耕文社）

「トンダ・モンタ総理っ！」本多立太郎＝著　（すりふか文庫）

「ボタン穴から見た戦争」ズヴェトラーナ・アレクシェーヴィチ＝著　（群像社）

＝図書館員がおすすめするこの一冊＝

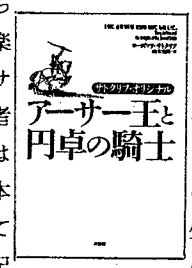
サトクリフ・オリジナル

## 「アーサー王と円卓の騎士」

ローズマリー・サトクリフ　山本史郎＝訳　原書房

（ティーン　９３３．７サ）

子どもの頃から、アーサー王の伝説物語は、しばしば読んできた。それは、子どもの雑誌の中であったり、単行本であったり、イギリスの全集ものの中であったりした。確かな記録がないままに、イギリスでは、５世紀頃に押し寄せてくるサクソンと対抗した戦さ上手な王がいたらしいという伝説があり、それがアーサー王伝説になっていったという。




ともあれ、数々の円卓の騎士たちの物語は、子ども心を躍らせ十分に楽しませてくれたのである。その楽しさが、再びやってきた。イギリスの無類のストーリーテラーであるサトクリフのオリジナル作品によるこのアーサー王物語である。この作者による「第九軍団のワシ」「ともしびをかかげて」を初めとした物語はとにかく面白い、の一言に尽きる。それらにも劣らぬ面白さが、この本には満載されている。石にささった剣をぬく事の出来る運命を背負って生まれてきたアーサーは王になる。やがて美しいグウィネヴィアを王妃に迎える。王妃が婚礼プレゼントとしてもって来た円卓は、１５０人の騎士が座れ、背もたれの大きな椅子がついていた。真ん中の空間は、世話をする召し使いや従者が行き来するために空けられてある。その円卓を囲む騎士たちの物語は、波瀾万丈そのものである。更に、ロマンに満ち満ちている。

特に、ランスロットと王妃の愛、ガウェインと世にもみにくい貴夫人、パーシヴァルの行く末が気になる。第２巻「アーサー王と聖杯の物語」第３巻「アーサー王最後の戦い」は、これから楽しんで読むところである。　（館長　栗村節子）

## 第25回読書会　平成14年11月27日（日）

### 「ハンス・フィッシャーの絵本」

「長ぐつをはいたねこ」（福音館）

「たんじょうび」（福音館）

「ブレーメンのおんがくたい」（福音館）

「こねこのぴっち」（岩波書店）

最近、朝起きるのがつらくなった今日この頃。みなさんはいかがお過ごしでしょうか？こちらは相変わらずで忙しい毎日です。

この間、図書館で毎月開かれている読書会に参加しました。今回の課題図書は絵本でいつもと違う感じがしてすごく楽しませてもらいました。ちょっとそのことをお話しましょう。

あの日はすごくいい天気で内に閉じこもるのはすごくもったいないような陽気でした。そこで景子さんという方にお会いし、いろいろおはなしすることができました。景子さんは、子どもの頃、ほとんど本を読まないで育ったそうで、この読書会に出るために初めてハンス・フィッシャーの絵本を読んだのだそうです。読んでみてこの絵本は、色が独特だったりカラフルで美しい絵だったりしてすごく気に入ったと言っていました。４冊あったのですが例えば、「長ぐつをはいたねこ」はクロッキーがいい感じで躍動的、物語もそうだけど絵がなにより楽しいと言っていました。なかでも夜の絵は、幻想的で、この絵本のなかではここが一番好き、と熱をもって語っていました。物語が楽しめたのは「こねこのぴっち」で、これは素直に楽しめたと言っていました。この絵本は知っていますか。生まれたばかりのぴっちが、ねこ以外のおんどりややぎやうさぎになりたいと思うのだけれど結局はねこが一番良いってことに気づくのです。簡単に書いたけれど実は深いですよ。

景子さんも絵本は奥が深いって言っていました。わたしなんか、それを読んで自分は自分のままでいいのだと思ったくらいですから。少し哲学的ですけどね。

もうひとりそこで会った征爾さんが言っていました。「ブレーメンのおんがくたい」は現代の老人問題にも通じるところがあるって。すごいですよね。確かにそう言われればそうですよね、年老いて必要なくなってしまったろばやいぬやねこやめんどりが生きがいを見つけて暮らしていくっていう物語だから。「長ぐつをはいたねこ」の夜の絵はやっぱり気に入っていました。スケッチだけであれほど動きのあるものが書けるのはすごいらしいです。絵心のない私にはそこらへんのところはちょっとわかりづらいですが。

それから征爾さんはすごく面白い人でしたよ。老人問題とかまじめな話をしたあとに、「たんじょうび」の話しをして、ねこたちがおばあさんのためにケーキを焼いていて焦がしちゃうところがあって、これははっきりとは文章に出てこないのだけれど、おばあさんはその焦げたケーキを食べてしまうし、ねこたちは焦げを砂糖でごまかすからおかしくておかしてと爆笑していました。

ちなみに、征爾さんは読書会で「ブレーメンのおんがくたい」のTシャツを着ていました。絵柄は四匹が初めて出会って、でかけているところです。絵本の絵と見比べてまったく同じだったので、景子さんと二人で感心していました。

最後に参加したみなさんにどの本が一番好きと聞くと二人が「こねこのぴっち」もう一人が「たんじょうび」という結果になりました。誰がどの本が好きって言ったのかは想像してみてください。

では、またお手紙書きます。

追伸、今度は是非みなさんも参加してみてください。いろんな人とお話ができて楽しいですよ。